

【短報】

高知県におけるアワテコヌカアリ

Tapinoma melanocephalum の追加記録辻 雄介¹・近藤英文¹¹〒780-0002 高知県高知市重倉 266-2 株式会社相愛

アワテコヌカアリ *Tapinoma melanocephalum* (ハチ目 Hymenoptera: アリ科 Formicidae) は体長 1.5mm 程の小型のアリで, 原産地不明(アジアもしくはアフリカ)の放浪種とされており (Smith, 1965; Wilson and Taylor, 1967), 日本国内では本州, 四国, 九州, 南西諸島, 小笠原諸島に分布する(寺山ほか, 2014; 久末, 2017). 本種は国内に産する同属他種とは, 体色が 2 色性(褐色と淡黄色)を示すこと, 複眼が大きいこと等で容易に区別される(寺山ほか, 2014). 建物内にも侵入, 定着し, 飲食物等への蟻集, 皮膚への噛みつきといった被害が報告されており(辻, 2018; 久末, 2018), 家屋害虫の一種としても知られている.

四国地方では久末(2017)により愛媛県から初めて記録され, その後, 辻(2018)が高知県から記録した. 高知県内での正式な記録としては, 2020 年 6 月時点で高知市長浜から知られるのみであったが(辻, 2018), 新たに既産地から離れた複数地点で本種が確認された. 本県における外来アリの侵入・定着情報の蓄積のため, 以下に報告する.

記 録

1w (worker), 高知市仁井田 高知新港公園 周辺道路 (世界測地系経緯度: 33.515769, 133.588246), 3. V. 2020.

3w, 香南市野市町中ノ村 泉の親水公園 (33.560196, 133.723032), 20. IX. 2020.

2w, 香南市野市町西野 ポリテクカレッジ内 (33.563260, 133.690792), 20. IX. 2020.

3w, 高知市高須 1 丁目 飲食店駐車場 (33.558252, 133.588112), 19. IX. 2020.

1w, 佐川町甲 JR 佐川駅東側 (33.500360, 133.292581), 6. X. 2020.

※サンプルはすべて辻採集・保管

高知市仁井田の産地(図 1-A)は沿岸部に造成された公園脇の歩道上である. 植栽帯の前に積まれていた木製パレット上を歩行していた個体を採集した. 行列を作っており, 植栽帯下のアスファルトの隙間に営巣していた. また, 植栽のシャリンバイ *Rhaphiolepis indica* の花上でも複数個体が確認された. 著者の一人である辻が当地には過去(2017–2018 年)に数回ほどアリ類の採集に訪れているが, 本種が確認されたのは今回が初めてである. 2019 年 7 月に原田ほか(2019)も当地でアリ類の生息状況を調査しているが, 本種は採集されていない. これらのことから, 本地点において本種は最近になって侵入した可能性があるが, 活動範囲や分布が狭いため, これまでの単発の調査では検出が難しかったことも考えられる.

香南市野市町中ノ村(図 1-B)では, 公園内に設置された自記水位計内に営巣(図 2)している個体を採集した. 個体数は非常に多く, 内部の至るところを高速で動き回っていた. なお, 特に駆除剤の設置は行われていなかったが, 同年 10 月 12 日に再訪したところ, 本種は確認されなかった.

香南市野市町西野では, ポリテクカレッジ内に設置された自記水位計から採集された. 中ノ村のように営巣はしておらず, 確認個体は採集

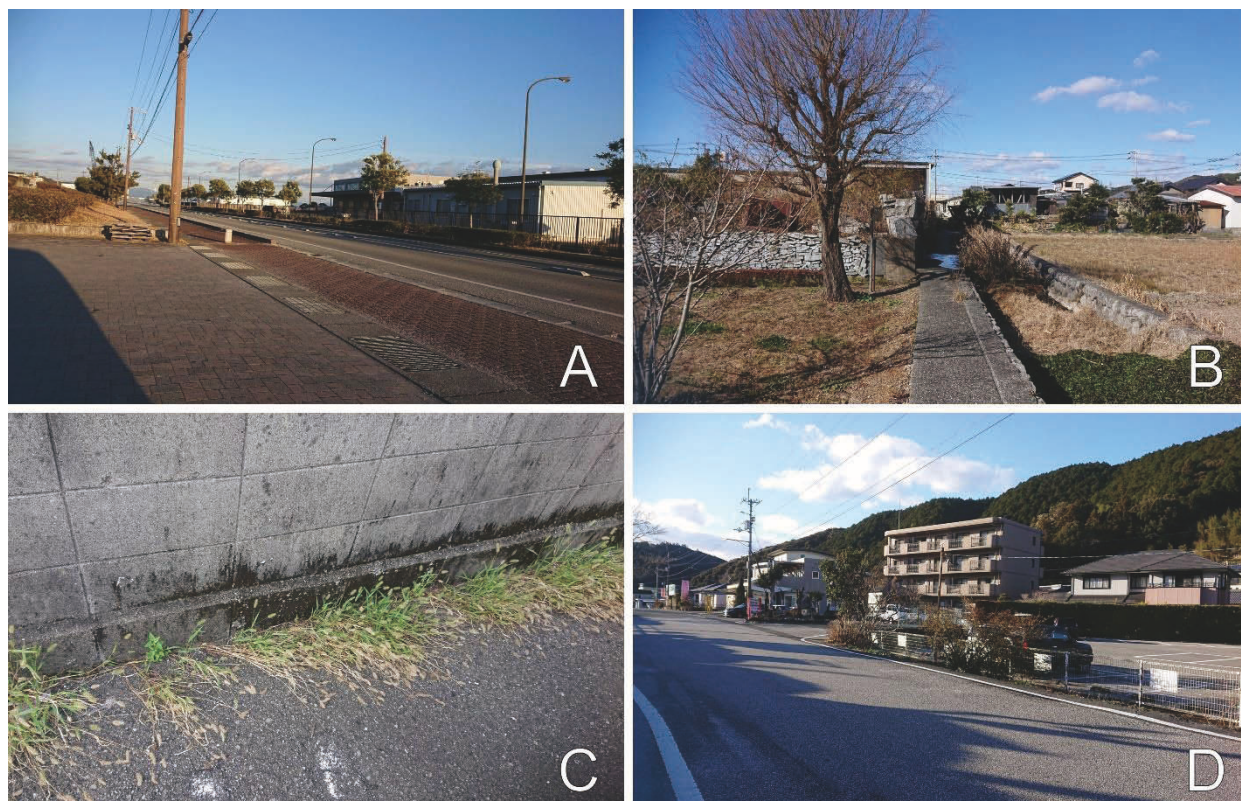


図 1. 採集環境 A: 高知市仁井田高知新港公園周辺道路 (2021 年 1 月 12 日, 辻撮影), B: 香南市野市町中ノ村泉の親水公園 (2021 年 1 月 12 日, 辻撮影), C: 高知市高須 1 丁目飲食店駐車場 (2020 年 10 月 6 日, 辻撮影), D: 佐川町甲 JR 佐川駅東側 (2021 年 1 月 12 日, 辻撮影)。



図 2. 自記水位計内に営巣するアワテコヌカアリ (香南市野市町中ノ村泉の親水公園, 2020 年 9 月 20 日, 辻撮影)

された 1 個体のみであった。個体は水位計の外側を歩行しており、内部への侵入は確認されなかった。おそらく周囲に巣があるものと思われるが、時間の都合上、調査はできていない。

高知市高須 (図 1-C) では、飲食店駐車場のブロック塀沿いで行列を確認した。巣は確認できなかったが、周辺に営巣している可能性が高い。

佐川町甲 (図 1-D) では、佐川駅北側の車道沿いで夜間 (21 時ごろ) 採集を行ったところ、広範囲に確認された。樹上から舗装路上、自動販売機、植え込み等で活動しており、当地では優占種と思われた。

上記地点のほか、県内数か所からも本種を確認している (著者ら、投稿中)。四国地方における本種の正式な報告は比較的最近になってからであるが (久末, 2017), こうした状況から、少なくとも高知県内ではより古い時代に侵入しており、既に各地 (特に市街地) へ拡がっているものと推測される。今後も調査を継続し、県内における分布情報の把握に努めていきたい。

謝 辞

貴重な文献を提供いただいた久末 遊氏 (九州大学大学院), 高橋弘明氏 (株式会社相愛) に厚くお礼を申し上げる。

引 用 文 献

- 原田 豊・宗清風紗・末満太地・山之口示段. 2019. 四国4県の港のアリ。ー外来アリのモニタリングー. 日本生物地理学会会報, 74: 32–37.
- 久末 遊. 2017. アワテコヌカアリを四国で採集. 蟻, 38: 27–30.
- 久末 遊. 2018. 福岡県におけるアワテコヌカアリ *Tapinoma melanocephalum* の記録. Pulex, 97: 746–749.
- Smith M R. 1965. House-infesting ants of the Eastern United States: Their recognition, biology, and economic importance. United States Department of Agriculture, Technical Bulletin, 1326: 1–105.
- 寺山 守・江口克之・久保田 敏. 2014. 日本産アリ類図鑑. 朝倉書店, 東京. 278pp.
- 辻 雄介. 2018. 高知県の民家におけるアワテコヌカアリの記録. 蟻, 39: 14–17.
- Wilson E O, Taylor R W. 1967. The ants of Polynesia (Hymenoptera: Formicidae). Pacific Insects Monographs, 14: 1–109.

南予生物 20: 34–36 (2021 年 1 月 16 日受理)
連絡先: 辻 雄介 (e-mail: y.tuji@soai-net.co.jp)